

宿泊学習の成果と成長の軌跡：1日目・2日目の比較まとめ

2日間の宿泊学習を通じ、児童は「5分前行動」や「異学年交流」において高い成果を上げ、9割以上が肯定的な自己評価を行いました。
1日目の集団行動の定着が、2日目の深い自然体験や他者への配慮へと繋がった様子をまとめています。

活動の成果と変化（1日目）

9割以上

の児童が「できた」と回答



5分前

.....



遅れるより待つ意識が、テキパキとした集団行動へ定着。



感動から論理的な
学びへの深化

1日目の吊り橋での達成感が、
2日目の深い学びの土台に。

1日目と2日目の児童の変化

1日目の傾向



主なキーワード
キャンプファイヤー、
時間行動



振り返りの姿勢
客観的に課題を
見つける



交流の様子
5年生（班長）
への信頼

2日目の傾向



主なキーワード
自然の発見、
異学年間の協力



振り返りの姿勢
「3分前行動だった」
等、厳しく自己評価



交流の様子
お互いに声を掛け
合い助け合う

活動の成果と変化（2日目）

9割以上

児童が「できた」と回答
（特に日常の指導成果が顕著に現れた）



5分前行動
習慣として定着



朝からテキパキとした集団行動として定着。

那須平成の森での
生態系理解へと発展。

自然体験が深い論理的な
学びへとつながった。



浮き彫りになった
課題と次へのステップ



生活スキルの
個人差と家庭連携

シーツの畳み方等に苦戦が
見られ、家庭での事前練習
の必要性が示唆された。



家庭生活への感謝と
自立心の芽生え

家事の大切さに気づき、
「自分でも手伝いたい」とい
う自立への意欲が見られた。

学年ごとの次なる目標



5年生

リーダーシップ
の継続



4年生

マナーの日常化が
今後の焦点。